

エネルギー回収型一般廃棄物処理施設整備事業
環境影響評価準備書説明会要旨
(住民説明会要旨)

1 説明会 エネルギー回収型一般廃棄物処理施設整備事業環境影響評価準備書説明会
(第11回住民説明会)

2 開催日時 令和5年12月17日(日) 午後1時30分から午後2時40分まで

3 開催場所 弥栄市民センター

4 参加者 8人

5 事務局

石川隆明副管理者、佐藤正幸事務局長、菅原彰一関清掃センター所長、
蜂谷敏志大東清掃センター所長、吉田健総務管理課長、
菊池弘総務管理課施設整備係長、石川勝志総務管理課主査、
日下尚也総務管理課主事
一般財団法人日本環境衛生センター3名(以下、日環センター)、
国際航業株式会社4名(以下、国際航業)

6 説明

- (1) エネルギー回収型一般廃棄物処理施設整備事業の概要について
- (2) 環境影響評価準備書について

7 説明内容

- (1) エネルギー回収型一般廃棄物処理施設整備事業の概要について
配布資料に沿って事務局が説明を行った。
- (2) 環境影響評価準備書について
配布資料に沿って国際航業が説明を行った。

8 あいさつ

本日はご多用の中、説明会へ参加いただいたことに対し感謝を申し上げます。

第11回目の住民説明会となっているが、説明会は整備事業のいろいろな段階で開催し、その都度皆様からご意見をいただきながら計画の内容について検討してきたところである。

本日の説明会は環境影響評価についてであるが、令和3年度から環境影響評価に着手し、この度、調査が終わり環境に対する影響がどのようなものが想定されるかを取りまとめたことから、その内容について説明をさせていただく。評価する項目も多岐にわたり、ボリュームのある内容となっており、概要の説明にならざるを得ないところもあるため、説明後に皆様から気になる点、不明な点があればご質問をいただきたい。

本日は限られた時間ではあるが、よろしくをお願いしたい。

9 質疑応答

参加者 廃棄物運搬車両の運行について、最大で1日当たり300台運行すると想定とされているが、工事期間ではなく、施設稼働後の台数と理解してよいか。

事務局 300台は施設稼働後の車両の台数である。

参加者 片道300台になるということか。

国際航業 1日当たり300台の車両が往復するという前提で予測を行っている。現在の収集範囲は大きく東側と西側に分かれており、東側と西側とで半々の150台ずつとして予測している。車両台数の設定については、現状では1日当たり246台程度の車両の出入りがあり、施設規模は現在より小さくなるが、収集範囲は同じであるため、実績台数よりも安全側をみて300台と設定している。

参加者 300台とは収集車両の台数か。一般持込車両の台数は把握しているのか。

国際航業 一般持込車両も含んだ台数である。なお、一般持込車両は大型車ではなく普通車もあるが、予測上は300台すべてを大型車両に置き換えて、排ガスや騒音・振動の数値が大きくなるような条件で計算を行っている。

参加者 説明会で出た意見は意見書としては取り扱われないという話であったが、必ず意見書でないとだめなのか。そうでないと、何のための説明会なのか分からない。私達とすれば、今回の環境影響評価の説明は初めて聞くものである。それを1月11日までに意見書だけで出してくださいというのは乱暴ではないか。そして説明会で出された意見は反映されないとのこと。地元とすればどのように考えていけばいいのか。

事務局 今回の説明会では、ご質問をいただいた内容についてはその場でお答えしている。意見書に関しては、岩手県環境影響評価条例で決められた制度的なものであって、意見書としてご提出をいただいたものについては、それに対しての事業者の見解を記載した上で、岩手県に提出することとなっている。

国際航業 最終的に評価書というものを作成することになるが、制度上、意見書として提出されたものについて評価書に記載することとなり、説明会で出された意見については評価書に掲載されない。ただし、今日の説明会で頂いている意見については、県へ説明会の開催結果として報告する。その後、県において環境影響評価技術審査会を開催して、県知事意見をまとめるが、審査会では説明会の開催結果についても含めて審査が行われるため、住民の皆様から頂いた意見も含めて知事意見に反映されるということだと認識している。組合としては、書面で提出され

なくても頂いた意見を踏まえて計画の内容へ反映していくという考えになろうかと思う。

参加者 説明会は1回だけなのか。もっとこれから続くのか。

事務局 準備書に関する説明会は、本日と今週木曜日の夜に川崎市民センターで行う予定であり、その2回の予定である。

事務局 本日の説明は概要的なものであり、詳細については、本日配布した資料でもお伝えしきれていない部分もあろうかと思う。一つ一つについて詳細な説明ができればよいが、ボリュームが多く専門的な内容もかなりあるため、準備書の内容については、組合のホームページでもご覧いただけるようにしている。皆さんの関心のある分野もあろうかと思う。気になるところは個別にお問い合わせ頂ければと思う。

参加者 環境影響評価準備書について、組合ホームページをどのくらいの人が見ているのか。

事務局 アクセス件数等は把握していない。

事務局 本日の説明会でお伝えしたかったこととしては、様々な基準があるが、現況を調査して予測をした結果を、それら基準と比較してみても、施設を整備し稼働しても、生活環境への影響は非常に小さい、基準を超えるということはない、そのような運用が可能な状況になっているということが一番の主旨である。その中で細かい部分で気になるところがあれば、お答えさせていただきたい。また、組合ホームページでも準備書をご確認いただけるようにしているので、そちらでもご確認をいただければと思う。

10 担 当 課 総務管理課

エネルギー回収型一般廃棄物処理施設整備事業
環境影響評価準備書説明会要旨
(住民説明会要旨)

1 説明会 エネルギー回収型一般廃棄物処理施設整備事業環境影響評価準備書説明会
(第11回住民説明会)

2 開催日時 令和5年12月21日(木) 午後7時から午後8時20分まで

3 開催場所 川崎市民センター

4 参加者 6人

5 事務局

石川隆明副管理者、佐藤正幸事務局長、菅原彰一関清掃センター所長、
蜂谷敏志大東清掃センター所長、吉田健総務管理課長、
菊池弘総務管理課施設整備係長、石川勝志総務管理課主査、
日下尚也総務管理課主事
一般財団法人日本環境衛生センター3名(以下、日環センター)、
国際航業株式会社3名(以下、国際航業)

6 説明

- (1) エネルギー回収型一般廃棄物処理施設整備事業の概要について
- (2) 環境影響評価準備書について

7 説明内容

- (1) エネルギー回収型一般廃棄物処理施設整備事業の概要について
配布資料に沿って事務局が説明を行った。
- (2) 環境影響評価準備書について
配布資料に沿って国際航業が説明を行った。

8 あいさつ

本日は夜分にもかかわらず、説明会へ参加いただき感謝申し上げます。

本日の住民説明会は第11回目である。計画の初期段階から、計画の進捗に合わせ、住民説明会を開催し、皆様からご意見をいただきながら計画の内容について検討してきたところである。

本日の説明会は環境影響評価についてである。施設整備をするにあたって、建設時及び稼働時に、周辺環境にどのような影響があるかを予測し、評価していくものである。そのために、現況を把握するための調査を行い、その上で予測をし、今後の対応について検討をしてきたところである。

広範囲にわたる調査であり、本日は限られた時間であるため、すべてをお示しするの

は難しいが、まずは概要についてお伝えしたい。その上で、皆様からお気づきの点、疑問点についてご質問をいただきたい。

9 質疑応答

参加者 環境影響評価の項目については承知しているが、地価がどうなっているかの項目もあるべきだと思う。

生活環境という名目であれば、住民は施設ができた後の地価がどうなったのかを知りたいと思うはずだ。10 年後 20 年後の地価は、将来のことなのでわからないと思うが、現在の地価の評価はやっておいて、稼働後にどうなったのかを評価すべき。もちろん、地価が変動する要素は色々あると思うが、やはりこのような施設付近の地価は下がる傾向にある。今までの歴史がそうになっている。

分析は難しいと思うが、現時点の地価の評価をやっていないと、本当の環境影響の評価にならないのではないのか。

事務局 現在の地価は、路線価や固定資産の評価といった様々な形で、既に評価しているため、改めてここで評価しても同様の結果になると思う。現在の評価については、幅広く公表している部分もあり、それが今後どう動いていくかは、ご判断いただける部分であると捉えている。また、先ほどお話いただいたとおり、地価の変動には様々な要素があるため、この事業による地価への影響を把握するというのは難しいものと思う。

環境アセスはこれまでの様々な経過、積み重ねの中でなされてきたものであり、それをベースに実施しているものである。

また、今回の環境影響評価の項目や方法書については、このような説明会の中でご了解をいただいて実施しているものであり、地価については盛り込んでいない。

参加者 猛禽類については、適切な対策を検討、実施と書かれているが、具体的な内容が聞きたい。

また、植物の移植や移設といっても中々難しいと思うが、これを確実にしていく方法はあるのか。

国際航業 猛禽類については、工事中を含めてモニタリング調査を行い、その状況に応じて影響があると判断される場合は、専門家に相談し、場合によっては工事を一時中止するなどの対応が想定される。

植物の移植については、それぞれの生育地と類似した場所を探して、その場所に移すことを想定している。また、事業地内に改変しない環境保全区域を設定したのは、影響がある植物の生育環境に似たようなところがあるためであり、そこ

に移植できるのではないかと想定している。これらについては、専門家に相談しながら対応する予定である。植物については、植えた後の生育状態を確認するところまで一連の流れで考えている。責任を持って事業者側と相談しながら管理、定期的な調査を行う。

参加者 専門家とはどういう方なのか具体的に教えてほしい。定期的にモニタリングをしていくということだが、その結果はどのように知らされるのか。

国際航業 準備書の作成の際に予測評価をするにあたっては、動物や植物などそれぞれの専門家に意見を聞いている。具体的には例えば大学の先生や博物館の先生などである。それぞれ分野の先生に意見を聞きながら計画を立てている。

モニタリングの結果については、事後調査報告書にて取りまとめて公表するといった手続きとなっている。

参加者 事後調査報告書は何年後になるのか。

国際航業 特段の決まりはなく、1年単位で公表している事例もあるし、ひと通り事後調査完了後に数年分をまとめて公表するという事例もある。公表の時期は現時点では未定であるが、必ず取りまとめて公表することになっている。

参加者 それは住民も閲覧できるのか。

国際航業 今回の準備書と同様に公表するため、皆様もご覧になることはできる。ただし、重要種の位置図といった情報については一般的な公表は控える形となる。

参加者 専門家の名前までは教えていただけないのか。

国際航業 準備書にもそれぞれの分野ごと掲載しているが、名前までは掲載していないため、この場では控えさせていただく。

参加者 市内の企業で、県のゼロエミッション事業ということで、プラスチックの再商品化事業に応募して採択になって取組が始まっている。そういうことをやっていると、集まってくるプラスチックの量が相当減ると思う。民間企業が始めていることについて、行政はどういう関わりを持っていくのか。それを軌道に乗せて、施設規模の見直しをするところまで踏み込んでいくといった考えがあるか。

事務局 民間の事業者が行っているその動向を見ている段階である。

施設規模の話があったが、現在、今後のごみ処理量の推計の見直し作業を行っている。その作業の中で、新しい施設になった場合に、分別区分の見直しをするといった説明をさせていただいているため、それらの影響を加味して作業をしている。今後、ごみの総量の推計結果によって、施設規模の見直しの必要性について改めて検討したい。環境影響評価については、当初の説明している規模を基本に実施をしたということである。

参加者 現時点ではそのとおりだと思うが、ランニングコストや初期投資が、市民にとって大きな負担にならないければ良いと思う。いつまでに見直しをするのか。着工までに確認しなければいけないのではないのか。将来に向かって人口減は間違いなく続くわけで、その負担が市民に来るのではと心配している。世の中は動いている。例えば、農業でいえば、直播が普及したため、不要となった苗箱の処理に農家が困っている。再利用できるものがそこにあるので、いずれ市民の負担とならないよう、全庁的に進めていっていただきたい。

事務局 令和6年度からの工事着工というのは、敷地造成も含めてのことであり、建物自体については実施設計が令和7年度からとなる予定である。設計の際には施設規模の見直しを反映した内容で整備を進める計画であり、対応できる時間はあると考える。

参加者 飛灰とばいじんは同じものか。

国際航業 同じものである。

参加者 飛灰について、どのような物質がフィルターに捕集される可能性があるのか。

日環センター 有害物質というのは、重金属類である鉛やカドミウムなどである。

参加者 その有害物質にダイオキシンは含まれないのか。

日環センター 飛灰の中にもダイオキシンは含まれている。

参加者 有害物質が溶け出さないようにする処理とは、具体的にどうするのか。

日環センター 重金属類などの有害物質を捕まえるような薬剤を添加することで、溶け出さないようにする。

参加者 それはずっと溶け出さないのか。

日環センター 薬剤を添加することで重金属類などが溶け出しにくくするというのが飛灰の薬剤処理になる。

参加者 処理した飛灰はどのような形、大きさを捨てられるのか。

日環センター 様々な形があるが、薬剤を添加した飛灰の中に、少し水を足して均一になるように練って落としていくため、団子状のような形になる。大きさは握りこぶしほどである。

参加者 それは他のものと一緒に埋め立てられるのか。

日環センター 埋め立て場所が同じところであればそのようになる。